

教員名	西尾 道子 (NISHIO Michiko)
所 属	文教育学部言語文化学科応用言語学講座
学 位	学士
職 名	教授
URL / E-mail	nishio.michiko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

語用論 / 同時通訳 / 認知言語学

◆主要業績

総数 (1) 件

- ・東京言語研究所記念講演 (D.Lightfoot 氏) 通訳
8月29日工学院大学 (東京)

◆研究内容

本年度は「大学における自立型語学学習環境の構築」という科学研究費補助金の支援を得た共同研究を主に行なった。研究の初年度であったため、まず、現在本学が所持している英語教材を分類・分析した。リーディング教材は各レベル・スキル・ジャンル毎にかなり揃っているものの、リスニング教材は初級レベルの教材のうち、ある程度の長さのある英文のポイントを把握する能力を向上させる教材が必ずしも十分に揃っていないことが明らかになった。この種の教材は市販されているものの数も少ないため、どのように補充していくのかについて方策を検討する必要があることも明らかになった。

◆教育内容

学部では、コア英語と英語圏言語文化コースの専門科目と両方を担当しており、コア英語ではリスニング・リーディングの基礎として、一般的な内容の本、テレビ番組、新聞などに使われる英語が理解できるようになることを目指した。

英語圏コースの専門の授業では対照表現学で英語の論文の書き方について理解を深めることを目的とし、特講等では自分の専門の語用論の分野で会話におけるポライトネスの現れ方について、最近の論文を読みながら考察し、英語が現実の場面でどのように使用されるのかについて議論した。

大学院においては認知言語学についての理解をより深めるために、モノに外部・内部から力がかかる場合、現象がどの様に捉えられてどのような言語表現の使用に結びつくのかについて書かれた文献を読みながら最近の動向について考察を加えた。

◆Educational Pursuits

At the undergraduate level, I taught both core curriculum classes and classes for English majors. In the former, I chose materials that would enhance students' basic reading and listening abilities: authentic materials that reflected the language and culture of English speaking countries such as books, TV programs, and newspapers. In the classes for English majors, I taught a class that designed to help students write academic papers in English. I also taught classes that dealt with subjects which are close to my own field of study, pragmatics. In these classes, recent papers discussing the use of expressions showing politeness in business transactions were closely studied.

In the graduate classes, in order to gain deeper understanding of the use of expressions which involve force dynamics within the framework of cognitive linguistics, and of the use of discourse markers, papers that dealt with both phenomena were critiqued and discussed.

◆共同研究例

大学における自立型語学学習環境の構築

◆将来の研究計画・研究の展望

主語のほかにも日本語では文末近くになるまで同定できないが、英語では文頭近くで同定される必要のある要素をいくつか取り上げ、日英同時通訳においてそれらの要素がどのように処理されているかを考察したい。それにより、一般に人が言語をどう理解・処理しているのかという問題を考える手がかりとしたい。

2008年（平成19年度）は本学独自の学習支援プログラムの作成・運用ならびに運用結果の詳細な分析を行なう予定である。